

2. 「2019年度見学会」報告

日本音響材料協会では、情報交換や技術交流を目的として正会員を中心に見学会を毎年1回程度、実施しています。

2019年は、2月20日(水)に吉野石膏虎ノ門ショールームとDAIKEN 秋葉原テクニカルスペースの見学会を開催した結果、会員35名の参加がありました。

〈吉野石膏の最新技術と情報の発信基地〉である吉野石膏虎ノ門ショールームは、虎ノ門ヒルズの直ぐ近くに立地する吉野石膏虎ノ門ビルの1階と2階に設置された施設です。



写真1 吉野石膏(株)虎ノ門ビルの外観

ショールームは1階と2階が展示ルームとなっており、2階に音響体験室があります。今回の見学会は、まず、せっこうボードの基本情報の説明が20分ほどありました。「せっこうは、何故、耐火性があるか」から「様々なせっこうボード製品」についてビデオをまじえて詳しい説明がありました。



写真1 せっこう製品の説明風景

せっこうの基礎とせっこう製品の説明の後、2班に分かれて、展示ルームと音響体験室の見学を行いました。

せっこう製品の説明で事前に説明があった遮音構造の「A2000 WI」の実施工模型や吉野石膏のラインナップの中で最も高遮音性能のTLD-80について遮音壁の説明がありました。その際、TLD-80の遮音壁の測定機関などの音響の専門家ならではの質問もありました。また、環境保全に貢献する石膏ボードリサイクルシステム、室内の空気環境を改善する製品(ホルムアルデヒド濃度を低減)についての説明もありました。

音響体験室では、TLD-56である「A2000 WI」の壁について、音源側と受音側の遮音室、それぞれに入り、聞こえる音を体験しました。また、TLD-40、45、50、56の遮音壁での聞こえ方の違いも体感しました。



写真2 音響体験室の様子

虎ノ門ショールームの玄関ホールには、吉野石膏の様々な製品が展示されていました。

吉野石膏の吸音材料については、丸孔タイプの「タイガートーン」と四角孔タイプの「スクエアトーンDプラス」の説明がありました。また、ストライプ状に長穴を開けたデザインの吸音せっこうボードも玄関ホールに施工されており、見学者から吸音性能などについての質問もありました。

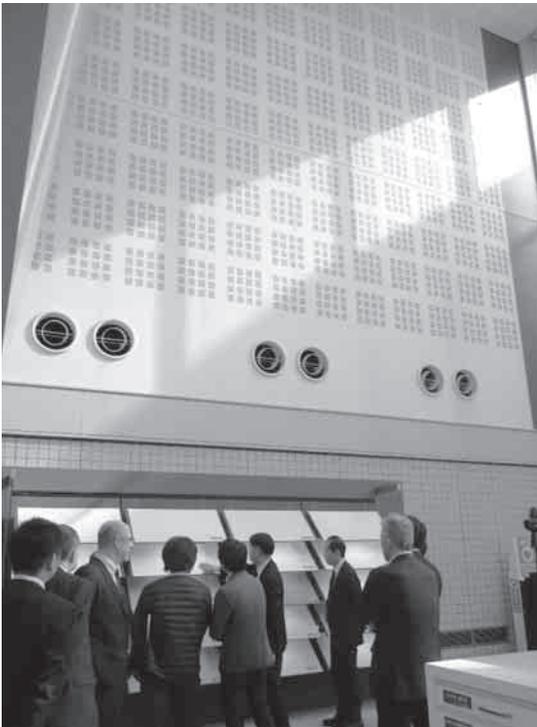


写真3 製品説明の様子(玄関ホール)

音に関する製品以外にも、吉野石膏の新商品である磁石がつくせっこうボード「タイガーFeボード」や、これまでのせっこうボードを使う場所以外の外装下地材として使えるせっこう製品の「タイガーボードタイプZ-WR」や「タイガーEXボード」などの紹介もありました。

DAIKEN秋葉原テクニカルスペースは、公共・商業建築市場の製品創造の場となる「コラボレーションスタジオ」と、住宅用防音室を体感できる「サウンドショールーム」で構成されていました。

秋葉原テクニカルスペースは、全国にあるDAIKENショールームとは異なり、技術や素材、製品の展示のほか試作品シミュレーションスペースなどを設け、

設計事務所、ゼネコン、事業主などの皆さまの課題や市場のニーズに対し、DAIKENの技術・素材を提案し、製品開発を行うことを想定した完全予約制のショールームです。

今回は、住宅用防音室の性能比較体感ができる「サウンドショールーム」を中心に見学を行いました。サウンドショールームは、「非防音」「スタンダード★★防音(遮音性能40 dB程度/500 Hz時)」「プレミアム★★★防音(遮音性能50 dB程度/500 Hz時)」の3種類のお部屋を設置しており、室内で同じ音量で音を流した時、それぞれの部屋でどの程度の音が洩れるかを体感しました。



写真4 サウンドショールーム

また、3種類の部屋の室内音響は「一般仕上げ」「ライブ気味(響きが適度に長い状態)」「デッド気味(響きが適度に短い状態)」に分かれており、それぞれの部屋で同じ音を出した際の室内音響の違いも体感しました。



写真5 プレミアム★★★防音室

「コラボレーションスタジオ」では、音に限らず DAIKEN独自の技術や素材が展示されていました。



写真6 コラボレーションスタジオ

音に関しては、反響部屋(天井・壁4面：石膏ボード+ビニルクロス仕上げ，床：フローリング仕上げ)と吸音過多室(天井：ダイロートン，壁2面：吸音壁，壁2面：石膏ボード+ビニルクロス仕上げ，床：フローリング仕上げ)の2部屋の展示がありました。

反響部屋では、DAIKEN吸音製品の「OFF TONEマグネットパネル」を1枚ずつ設置し、吸音を施す事での様に室内音響が変化するかを体感を行いました。



写真7 反響部屋(OFF TONE設置)

今回、見学会に参加した方々から、次のような感想をいただきましたので、ご紹介いたします。

[虎の門ショールーム]

<見学者1>

- ・石膏ボードの作り方など、解りやすい説明でした。遮音壁の構造も実物で見学できるので、イメージがわきやすいと感じました。

<見学者2>

- ・通常業務で使用しております石膏ボードですが、種類の詳細(性質・用途)の理解を深められました。また、遮音壁性能について、今までは数値のみの感覚でしたが、今回、体感できたことが良かった。

<見学者3>

- ・石膏ボードの種類別、用途などを改めて確認することが出来た。特に強化せっこうボード、硬質せっこうボードの違いや下地の千鳥配置なども実際に見ることができ、今後の業務に役立つ知識を知ることが出来た。

[DAIKEN 秋葉原テクニカルスペース]

<見学者1>

- ・「OFF TONE」のデモ(吸音パネルの追加)は、実際に体感しながら吸音量を検討できるので、とても良いシステムだと思った。3タイプの防音室があり、グレードを比べながら体感出来るのが、とても良かった。

<見学者2>

- ・3つのグレードの防音ルームではそれぞれの遮音性能の違いを体感することが出来た。また、建材のコーナーでは和紙から作られた畳の展示や防音床下地材の歩行感の確認などとても有意義だった。

<見学者3>

- ・大建工業では「音」に関しての様々な商材があることが分かったが、ホールやスタジオを対象とした本格的な防音というよりは、一般家庭向けのコストを優先した商材が多くみられたように感じた。

最後に、今回の吉野石膏(株)虎ノ門ショールームと大建工業(株)秋葉原テクニカルスペースの見学の機会を与您にいただきました吉野石膏株式会社様と大建工業株式会社様の方々および見学会で説明をしていただきました社員の皆様にお礼を申し上げます。